まんのう町
指定・登録文化財一覧

国の指定・登録文化財

1．綾子踊
国の重要無形民俗文化財　昭和 51 年５月４日指定
ユネスコ無形文化遺産　令和４年 11 月 30 日
隔年の９月上旬、加茂神社等に奉納される。踊は小踊６人、大踊６人とも、艶やかな振袖姿に女装した男子が行うのが特徴で、踊の縁起主である綾子を美しく象徴したものであると考えられる。風流踊と総称される踊の一つであり、近世初期の女歌舞伎の面影を色濃く伝えるものである。

2．満濃池樋門
国の登録有形文化財　平成 12 年２月 15 日登録
明治 3 年、寒川町富田村(現さぬき市)の軒原庄蔵によって建設された満濃池の底樋隧道とその出口である。樋門は間口 3.5m、高さ 4.2m。底樋の抗口周りに五角形の迫石を用い、石造のコーニス、袖壁、柱頭付端柱で抗門を飾る。現在の底樋はその後の嵩上げ工事により 197m まで延長されている。

3．重田家住宅主屋他５件
国の登録有形文化財　平成 15 年９月 19 日登録
明治 10 年に築造された、木造平屋建て住宅。寄棟造茅葺の上を金属板で覆った主屋根の周囲に、庇屋根をめぐらせる四方蓋造。他に取合廊下、長屋門、土塀及び石垣擁壁、道具蔵及び雪隠、米蔵の5件が同時に登録されており、明治初期の上層農家の屋敷構えを今に伝える。

4．中寺廃寺跡
国の史跡　平成 20 年３月 28 日指定
徳島県との県境近く、大川山の西尾根に立地する、平安時代の山林寺院跡。古来より祈りの場として利用されていた土地が平安時代になり整備された。計画的に配置された仏堂跡・塔跡が存在することから、讃岐国分寺との関係も推測される。西播磨産須恵器多口瓶や古密教法具等、珍しい遺物も多数出土している。

5．天川神社社叢
国の天然記念物　昭和 55 年 12 月 17 日指定
土器川沿いに鎮座する、天川神社の社叢。約3ヘクタールの敷地に約 300 種類の植物が生い茂る。高木層には樹齢数百年とされるスギの大樹を始めアカマツ、クスノキ、ツブラジイ等があり、亜高木層や低木層にはイヌガシ、クロバイ、ナンテン等がある。シダ・コケ類は県下屈指の豊富さを誇る。

6．満濃池
国の名勝　令和元年 10 月 16 日指定
金倉川をアーチ式の土堰堤で堰き止め、最大 1,540 万 m^3 の水を貯える。農業用のため池としては貯水容量国内第一の規模を誇る。大宝年間に築かれて以来、弘法大師空海や西嶋八兵衛、長谷川佐太郎らによる修築を繰り返し現在に至る。広大な池面に写る山容は、四季とともに変化を見せ、古来より人々に愛されている。国内初のため池の名勝である。

香川県の指定文化財

7．木造菩薩立像
香川県指定有形文化財(彫刻)
昭和 56 年４月 21 日指定
平安時代の作とされる。像高 101 cm。髻は高めに形よく整えられ、丸く短い面相に穏やかな目鼻を巧みに刻み、裳の折り返し部分が浅く柔らかに彫り出される。この時代の代表的な作風といえる。桧材寄木造で像表面には金箔を漆で貼った痕跡があり、彫眼である。

8．大川念仏踊
香川県指定無形民俗文化財
平成 19 年３月 30 日指定
旧暦6月14日に近い日曜日、古くから雨乞い信仰を集めている大川神社などに奉納される。特徴としては、他の地域の念仏踊では大人が担当する中踊を主に子どもが担い大人が補佐すること、県内の念仏踊の大半が滝宮天満宮へ赴き奉納するのに対し、大川念仏踊は大川神社を中心に奉納していることなどが挙げられる。

9．杉王神社のスギ
香川県指定天然記念物
昭和 46 年４月 30 日指定
土器川上流の杉王神社境内にそびえるスギの巨木。樹高 46.5m、胸高周囲 10.6m。県下最大で、その樹齢は推定 800 年以上。現在は埋まっているが、幹の下部には大空洞があり、子どもが 25 人も入って遊ぶことができたと伝わる。樹勢はとても旺盛で、川奥集落の主としてその威容を誇っている。

まんのう町の指定文化財

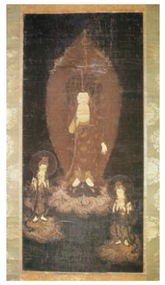
10．十三仏笠塔婆
まんのう町指定有形文化財
(建造物)
平成 14 年３月 19 日指定
四條本村の立薬師にまつられる凝灰岩の石造仏。銘文によると、永正 16(1519)年9月 21 日、四條村の一結衆によって造立された。正面に十三仏を表す像容、左面に金剛界大日如来を現す梵字、右面に胎蔵界大日如来を表す梵字が彫られている。中讃地域7基の形式の中間時期にあたり、貴重な1基として高く評価される。

11．四つ足堂
まんのう町指定有形文化財(建造物)
平成 18 年２月 10 日指定

旧阿波街道沿いに建つ素朴な茶堂。現在の茶堂は明治初め頃の再建で、当時の様式を残す入母屋造茅葺。粉ひき地蔵が安置され、街道を行き交う金毘羅参りの旅人などが旅の疲れを癒した。平成 30 年、地元の下福家自治会によって、屋根の修理(差し茅)が行われ、建築当時と同じ姿を保っている。

12．金剛寺十三重塔
まんのう町指定有形文化財(建造物)
平成 22 年 11 月 30 日指定
鎌倉時代後期の石塔。第 10 層までが山門前に立ち、第 12･13 層が境内にある。県内で現存する、この時代の十三重塔は、白峯寺の3基と金剛寺の1基のみである。平成 21 年に町指定文化財となった金剛寺遺物と伴に、この時代の仏教文化を知る上での貴重な遺物である。

13．絹本著色阿弥陀三尊像
まんのう町指定有形文化財(絵画)
昭和 59 年８月１日指定



鎌倉時代末期の作。阿弥陀如来が観音･勢至の二菩薩を伴って来迎する様子が描かれる。三尊の納衣や裳の部分に使われた、細かい截金文様が見事。脇侍が上下に描かれ、動きを感じさせる。光背の火炎は天台宗系知恩院派の画風を思わせる。大きさは縦 149 cm、横 69 cm。

14．絹本著色阿弥陀如来像
まんのう町指定有形文化財(絵画)
平成９年７月１日指定

四十八条の光明を背負った阿弥陀如来の像容や絹の状態等から見て、室町時代後期の天文年間頃に描かれたものと考えられるが、明確な制作年代は不明。後世の補彩が認められるが、比較的目の荒い絹本に載金を使い、衣紋の模様を繊細に表現している。大きさは縦 69.7 cm、横 32.6 cm。

15．木造地蔵菩薩立像
まんのう町指定有形文化財(彫刻)
昭和 58 年３月 24 日指定

室町時代の作。頭を丸めた通形の地蔵菩薩で、ふくよかな頬をもつ面相は、慈悲の相を巧みに表している。衣紋も繊細な彫技によって造形され、特に腹前の表現は見事である。桧材寄木造の素木の像で、眼には玉が入れられている。像高は 77.5 cm。

16．木造薬師如来坐像
まんのう町指定有形文化財(彫刻)
昭和 58 年３月 24 日指定

鎌倉時代の作。穏やかな表情の中にも厳しさを秘め、力強い彫技が、いかにも鎌倉期の様式を思わせる。納衣全体に繊細優美な載金文様が施され、華美にして荘厳な像である。桧材一木造で、像表面には漆で金箔が貼られ、眼には玉が入れられている。像高は 31 cm。

17．木造薬師如来立像
まんのう町指定有形文化財(彫刻)
平成 19 年２月 27 日指定

室町時代の作。伏し目勝ちで締まった口もと、豊かな頬と大きな耳、すべてが温雅で健康的である。衣紋は左右対称に美しく表現される。薬師如来像の多くは左手に薬壺を載せるが本像は掌に小さな宝珠を載せる。桧材一木造で、像表面には漆で金箔が貼られ、眼には玉が入れられている。像高は 53 cm。

18．蓮如筆執持鈔文(紙本墨書)
まんのう町指定有形文化財(書跡)
平成９年７月１日指定

室町時代の作。本願寺第八世蓮如が「執持鈔」の第二条と第五条の一部を掛幅にするため、抜き書きしたもの。「執持鈔」は本願寺第三世覚如によって撰述された。筆法や蓮如の動静より、晩年の 70 歳以降に書されたと考えられる。縦 84.2 cm、横 37.5 cm。同寸のものが双幅存在する。

19．安造田東３号墳遺物
まんのう町指定有形文化財(考古資料)
平成 19 年 11 月 30 日指定
羽間にある安造田東３号墳は７世紀初頭の造営。横穴式石室付近より多彩な副葬品が出土した。中でも最大径 1.45cm のモザイクガラス玉は、2 世紀頃の西アジア(ササン朝ペルシャの領域)産であると考えられ、国内では他に出土例が確認されていない。

20．金剛寺遺物
まんのう町指定有形文化財(考古資料)
平成 21 年３月 31 日指定
金剛寺裏山の経塚群から出土した 12 世紀前半～13 世紀前半の遺物。この地において、100 年の長きに渡り、連綿と経塚が造られた事がうかがえる。指定された遺物は保存状態の良い鉄製経筒１点、陶製経筒外容器9点、陶製経筒外容器蓋9点、銅鏡１点。

21．弘安寺廃寺遺物
まんのう町指定
有形文化財(考古資料)
平成 22 年３月 31 日指定
弘安寺廃寺から出土した、飛鳥時代後半～奈良時代の瓦。軒丸瓦は、徳島県美馬市の郡里廃寺等と同笵である。飛鳥時代後半の瓦が、これほど多く出土する寺院跡は、県内でも稀であり、讃岐国の古代寺院の変遷を考える上で貴重な資料となっている。

22．佐岡遺跡出土銅剣
まんのう町指定有形文化財
(考古資料)
平成 29 年 11 月 28 日指定
昭和 24 年９月、長尾の岩谷池余水吐下より銅剣2本が出土した。いずれも突起が棘状に発達した典型的な平形Ⅱ式銅剣である。平形Ⅱ式銅剣を保有する集団の県最奥部にあたる。青銅器を保有して祭祀を行った集団の広がりが強く推察され、香川県の弥生時代の変遷を考える上で欠かすことのできない重要な遺物である。

23．三島神社湯立神楽
まんのう町指定無形民俗文化財
平成 18 年３月 13 日指定
毎年 10～11 月の秋祭の宵宮に湯立神事で奉納される神楽。拝殿の前に湯棚を設けて諸神を祀り、神楽が奉納された後、御祭神、諸神、宮司の順に湯につかる。その湯は、青笹の葉で参拝者に振舞われる。湯立行事と伊勢流の神楽、火渡りの神事が一体化していることが特徴。

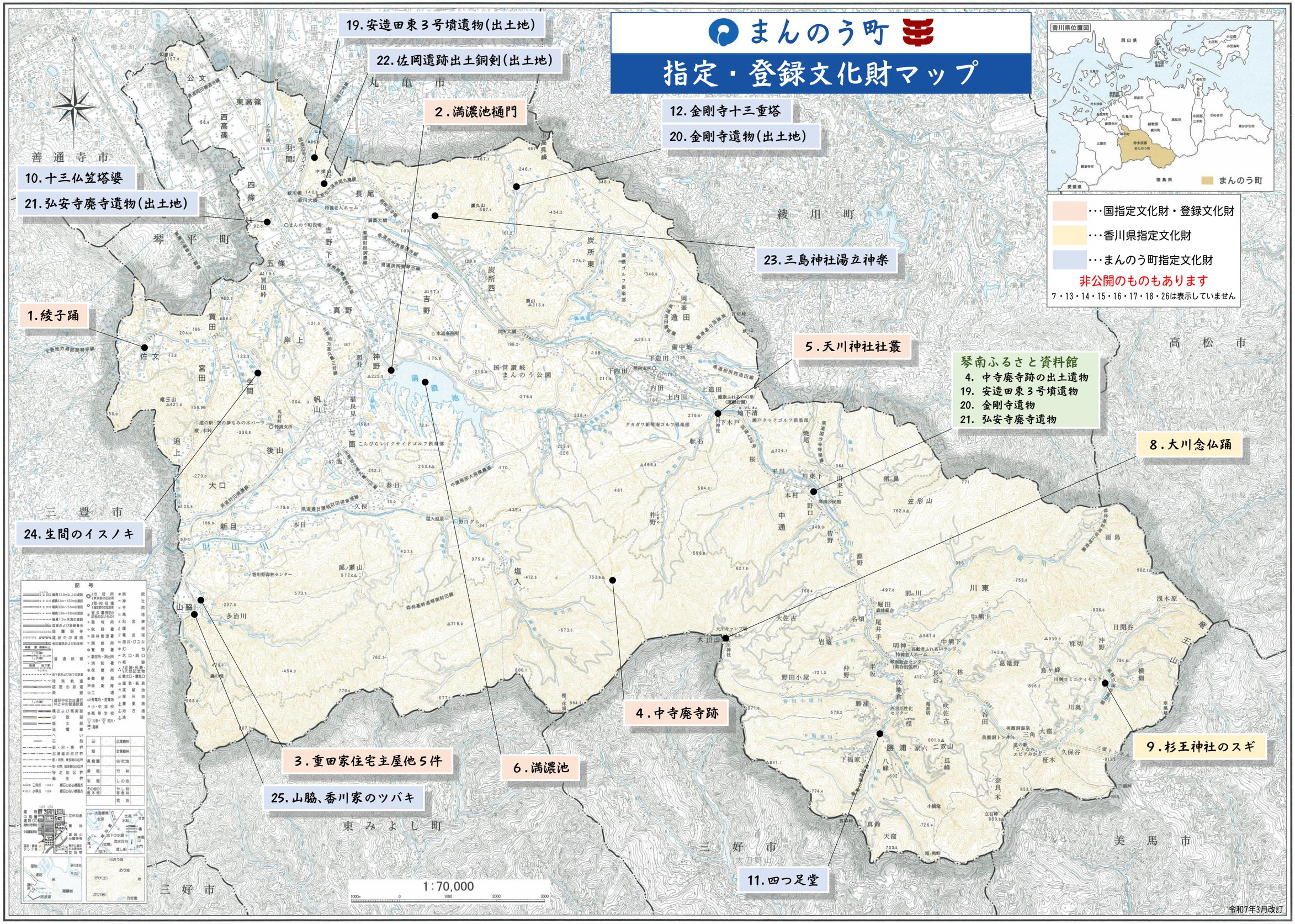
24．生間のイスノキ
まんのう町指定天然記念物
平成 24 年２月 29 日指定
幹の太さは約 2m、枝の繁った広さは約 3.5m。樹齢は 200 年以上と推定され、静かな山里にどっしりとした、たたずまいはあまり多くないこともあり、これほどまっすぐ伸びたイスノキの大木は、県内では他に類を見ない。

25．山脇、香川家のツバキ
まんのう町指定天然記念物
平成 24 年２月 29 日指定
戦国時代末期、讃岐天霧城主一族が、この地に住み着き植えたと言い伝えられる老木。幹の太さは約 2m、高さは約 3m。一般的に「五色八重散椿」と呼ばれる種類の木で、4月初めには、白から真紅までの、様々な色合いの美しい花が、山里を彩る。

26．下福家のモミジ
まんのう町指定天然記念物
令和７年２月 26 日指定

勝浦下福家の民家の北西隣に位置する。樹齢は推定約 300 年で未だ樹勢は旺盛。胸高の幹回りは 2.9 メートル。モミジは日当たりのよい半日陰を好む樹種であるため、常に人の手が入る場所において樹齢を重ねることから、下福家のモミジが代々、手厚く管理され、受け継がれてきたことがわかる。また全国的に見て希少な巨木の類に入るとみられ、地域の豊かな自然環境と人の営みの歴史が織り成す貴重なシンボルツリーとなっている。

まんのう町
指定・登録文化財マップ



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の５万分の１地形図を複製したものである。（承認番号 平 17四複、第 86号）」

まんのう町教育委員会 生涯学習課 文化財室 〒766-0202 香川県仲多度郡まんのう町中通875番地 琴南公民館内 TEL(0877)85-2221 FAX(0877)85-2826